

1. 沿革

余市町は、北は日本海に面し、他の三方を緩やかな丘陵地と山々によって囲まれた町です。道内では比較的温暖な気候といわれ、そのような地理的条件を生かし、町の発展の基礎となった漁業、果樹栽培に加え、ウイスキーやワイン醸造も盛んです。また旧下ヨイチ運上家・福原漁場・フゴッペ洞窟などの国指定の重要文化財もあり、多くの観光客が訪れています。

本校は明治36年余市高等小学校として開校。先人の思いは連綿と受け継がれ、恵まれた教育環境の中、各界で活躍する人材を輩出してきました。日本人初の宇宙飛行士となった毛利衛氏も卒業生の一人であり、平成4年9月、本校の教室とつないだ「宇宙からの授業」が実施されました。

現在の校舎は昭和59年に完成し、壁面には町民からのメッセージとして、故穂井田日出麿氏による「過去を振り返り、現在を見つめ、未来を創造しようとする子どもの姿」が描かれています。

令和8年4月時点の児童数は284名。近年は児童数の減少が続いていますが、小樽市を除く後志管内19町村の中では最も多くの児童が通う小学校です。

「健やかにのびる黒川の子」を学校教育目標に掲げ、平成5年には後志管内教育実践表彰を受けました。地域の方々からの多くの支援を受けながら、変化と多様性にあふれたこれからの社会に対応できる、たくましさや柔軟さを身につけた人材の育成を目指しています。

6. 校歌

三
姿は親し茂入山
ゆたかにみゆる
ふるさとのりんごは白い
見よやあふるる幸を海山の
ここに学ぶよ明けくれ
黒川小学 たのし学びや

二
清き瀬を
若鮎のぼる余市川
われらは願う
美わしき真実と愛と
いよよ丈夫な身体育てて
ここに学ぶよ明けくれ
黒川小学 たのし学びや

一
うちよする
日本海の潮ざいに
われらは思う
大いなる望みとゆめを
つねに明るき心いだきて
ここに学ぶよ明けくれ
黒川小学 たのし学びや

校歌
作詞 石森延男
作曲 下総皖一

2. 校章



校章の由来

現在の校章は、昭和13年6月17日、校旗を新調するにあたり制定されたものであって、外廓は北国の雪を象どり質実剛健、清廉潔白をあらわし、6つの花弁は、リンゴの花びらになぞらえ健康で明朗快活、深い同情と寛容を意味し、山幸の豊穰を祝ったものである。内側に囲まれた8つの波は八潮を表現し、中央に黒川と校名を配し、沈着でしかも規律正しく、強い責任感とたゆまない勤勉、協同を意味し、海幸を讃えたものである。

3. 学校教育目標

すこやかに のびる 黒小の子

- かしこい子（知）
- やさしい子（徳）
- たくましい子（体）
- さいごまでやりぬく子（徳）

4. 令和8年度 重点目標

豊かに表現し、学びを深める子の育成

5. 児童数

1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
50	40	50	45	56	43	284